



ごあいさつ

21世紀へ向けてのこれからの時代は、技術の時代、国際化の時代といわれます。そして、この中で我が国は、数多くの先端技術分野で創造的な技術開発を展開し世界に飛躍していくものと期待されています。

このような時代の進展とあわせて、各地域がそれぞれに有している条件を生かしながら、適確な産業振興策を確立することが必要ですが、特に幅広い分野で新しい知識や技術を積極的に取り入れていくことが地域振興にとって不可欠の課題であると考えられます。

九州の中央に位置する熊本県は、豊かな自然環境や、これまでの技術集積・経済基盤などが注目され、先進企業の進出も続き、着実な発展を遂げています。

このような中であって、本県では昭和57年1月に全国に先駆けて、熊本テクノポリス建設基本構想一新火の国計画—を公表しましたが、基本構想で提示したビジョンをさらに具体化するため、去る6月、熊本テクノポリス開発構想を取りまとめました。

これからテクノポリス建設を跳躍台としながら、21世紀へ向けて熊本の新たな飛躍が始まるものと期待していますが、ここに熊本テクノポリス開発構想の概要をご紹介します。熊本テクノポリスの姿を、そして郷土熊本の可能性が大きくひらけていく様子を、イメージしていただければ幸いです。

昭和58年10月
熊本県知事細川護熙

熊本テクノポリスとは——。



〈「技術」と「都市」の結びつき〉

テクノポリスという、辞書にもものっていない言葉を近頃よく耳にします。これは、テクノロジー（技術）とポリス（ギリシャの古代都市のこと。一般的に都市の意味に使われている。）を結びつけた「技術集積都市」という意味を持つ新しく造られた言葉です。

〈新しい発想による地域開発〉

国で提唱されたこのテクノポリス建設構想は、これからの時代を担う先端的産業、その産業の活動を支える大学や研究機関、更には人々の生活の場を一体のものとして結びつけ、地域の豊かな伝統や美しい自然に現代の工業文明が調和した、これまでになかった新しい発想によ

る「まち」づくりをしようとするもので、21世紀に向けた地域開発のための政策です。これまでの地域開発が、用地の確保や道路などの基盤の整備を中心とした比較的ハードなものであったのに対し、文化や科学技術・生産力の集まる地域を、東京や大阪などの大都市だけでなく地方にもつくりあげていこうとするソフト重視の試みです。

〈地方からの熱い期待〉

地方の歴史的・伝統的文化や自然を生かしながら、地方での先端的な技術開発と魅力あるまちづくりをねらいとするこのテクノポリス構想に対し、経済をはじめとするいろいろな環境の変化の中で、これからの地域開発の方向について模索を重ねてきていた地方から今、熱い視線が注がれています。